

リンパ形質細胞性リンパ腫 (IPL) と診断された患者さんの 情報を研究に利用することについてのお願い

九州医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。本研究に関するご質問等がありましたら下記の[当院の問い合わせ窓口]までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、当該研究にカルテ情報が用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の[当院の問い合わせ窓口]までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお、研究の進捗状況によっては、あなたのデータを取り除くことができない場合がございますので、ご了承ください。

[研究課題名] リンパ形質細胞性リンパ腫を対象とした新規治療薬による治療効果と予後に関する調査

[当院の研究責任者] 血液内科 岩崎 浩己

[研究の背景]

リンパ形質細胞性リンパ腫(LPL)の発症頻度は年間あたり人口 100 万人中 2-3 人と非常にまれな造血器腫瘍で、高齢者に多く、発症年齢の中央値は 60 歳代です。

リンパ形質細胞性リンパ腫(LPL)は通常の化学療法による根治は望めず、発熱や倦怠感、血球減少などの症状や合併症が出現した際に治療を開始します。治療として従来は多剤併用化学療法が中心でしたが、十分な治療効果が得られておりません。近年は新規治療薬であるベンダムスチン(商品名:トリアキシン)やボルテゾミブ(商品名:ベルケイド)により治療効果が著しく改善されたことが海外で報告され、日本でも、2010年にベンダムスチン(商品名:トリアキシン)、2018年にボルテゾミブ(商品名:ベルケイド)が治療薬として使用可能となりました。

[研究の目的]

当院においてリンパ形質細胞性リンパ腫(LPL)と診断された患者さんを対象に、新規治療薬による治療効果や予後への影響について調査をし、解析することで患者さんの治療選択肢を検討する際の参考とすることが可能となります。

(臨床研究に関する公開情報/単施設実施用)

[研究の方法]

●対象となる患者さん

西暦2002年1月～2020年12月の期間に当院でリンパ形質細胞性リンパ腫(LPL)と診断された患者さん

●研究期間：倫理委員会承認日から西暦2023年12月31日

●利用するカルテ情報

西暦2002年1月1日から西暦2021年12月31日までカルテ情報を使わせていただきます。

カルテ情報：患者情報（年齢性別、発症年齢、治療前血液検査*など）、疾患情報（診断日、診断時病型、診断時臨床病期、治療中血液検査*など）、治療関連情報（治療レジメ、最終観察日、転帰、死亡日、死因など）

※検査項目：WBC, Hb, Plt, IgG, IgA, IgM, B2-MG, sIL-2R, フリーライトチェーン、TP, Alb, AST, ALT, gGTP, BUN, Cre

●情報の管理

情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[当院の問い合わせ窓口]

国立病院機構九州医療センター

血液内科 岩崎浩己

〒810-8563 福岡県福岡市中央区地行浜 1-8-1

電話 092-852-0700